

関連項目：指導体制プラン②、教育活動プラン⑥

信頼される学校づくり

目的

本校の児童は、自尊感情や規範意識が低いです。自尊感情や規範意識は、学校教育だけでは高くなりません。そこで、保護者や地域の方と連携して児童を育成することにしました。

内容

● 学校サポーター制度

今年度より、校外学習等を保護者にサポートしていただく「学校サポーター制度」を始めました。生活科や総合的な学習の時間等では、校外に出て行くことが多くあります。その際の安全管理の協力を保護者にしていただく制度です。年度当初に学校サポーターを募集し、登録していただいた方には、校外学習の予定を学校連絡メールで伝えています。現在 23 名の保護者が登録していただいています。

参加された保護者の方は、児童の安全管理をしていただくだけでなく、児童の鋭い感性や教員の大変さ、地域の文化の深さ等に気付かれたようで、「逆にこちらが勉強になりました。」という感想もいただいています。保護者が教育活動に参加することで、学校への信頼度を高めていこうと考えました。

● スマイルあいさつ運動

毎月 1 回程度、地域の方、派出所の警察官、保護者、教員、児童があいさつをする活動です。この活動は、あいさつだけでなく、安全パトロールという面もあります。本校正門の前は、北から南の一方通行ですが、一方通行の逆から進入する自動車があります。道幅の細い通学路を自動車が対向するのは、大変危険で児童がいつ事故に遭っても不思議ではない状況です。そこで、一宮交番の警察官の方にも協力していただき、一方通行の撲滅に取り組むことになりました。最初は、逆走を制止してもその制止を振り切って進入していた自動車もありましたが、毎月続けることによって、スマイルあいさつ運動の日に逆から進入する自動車はなくなりました。この活動をしていない日には、まだ逆走する自動車もありますが、この活動を始める前よりは減っています。

児童の規範意識を高めるためには、まず保護者や地域の方の協力が必要であると思い、始めた活動ですが、その効果が現れ学校生活のルールを守る児童が増えてきました。あいさつの面でも登下校中あいさつをする児童が増えたと学校関係者評価委員会でもほめていただきました。地域の方の中にも、「大人があいさつしなければ子どもはあいさつをしない。」という考えが広がっているそうです。

● 個別支援の推進

個別支援としては、特別支援教室、個別支援、教育相談の 3 点を実践しています。特別支援教室では、全体指導では、学習内容が定着しにくい児童を別室で数名までの少人数で指導しています。個別支援は、全体指導がしにくい児童を特別支援教育支援員、特別支援教育サポーター、ハートアドバイザーの 3 名が、教室で児童の横に寄り添って支援しています。以上 2 点の個別支援によって、昨年度まで落ちていた学習できなかった児童が教室に帰っても落ち着いて学習するようになりました。やればできるという自尊感情の高まりもよい結果につながっていると思います。教育相談では、保護者の悩みの相談を真摯に受けとめ、ともに協力し解決していくようにしています。相談内容や保護者の希望により、スクールカウンセラー、関係機関、学級担任、養護教諭、栄養教諭、管理職等相談者を多様に用意しています。また、学級担任が一人で保護者からの相談や児童へのかかわり方の悩みを抱え込まないように常に言葉をかけるようにしています。学年団の中も常に相談ができるような風通しのよい学年団経営を行っています。そのため、早い段階でだれかに相談できる雰囲気できています。

成果

こうした取組をすることで、暴力件数、いじめ認知件数が著しく減少しました。授業中、日常的に離席する児童もいなくなりました。学習状況調査の質問紙調査で学校が好きと答える児童が多くなりました。また、昨年度の同時期（1 月末）と比較して 30 日以上欠席の児童が 3 割程度減少しました。